

地熱発電所の油分離槽の点検中に硫化水素中毒

【発生場所】

地熱発電所内の油分離槽室内

【被災原因】

発電所内のタービンへ送られた後の蒸気は、潤滑油を使用する空気ポンプにより大気開放されるため、排ガスに油が混じる。排ガスはドレンタンクで分離され、分離後の油分及び水分は、油分離槽に送られる。この分離槽の油かき取り作業などを行っていた作業者が、昇降用はしごの下でうずくまり、応答がなくなった。

【被災状況】

病院に運んだが既に死亡していた。病院で被災者の調査をしたところ、肺、大腿筋、脳、心臓、肝臓、血液から硫化物が検出され、硫化水素中毒と判断された。

【対策】からの抜粋

- 3 油分離槽室に警報装置の設置等を行うこと
- 5 安全衛生教育を十分に行うこと
- 6 総合的な安全衛生管理を行うこと



～理研計器からのご提案～

リスクアセスメントを実施し、ガスの発生が予見される環境や作業がある場合、リスク低減措置に加え、ガス検知警報器で安全確認をしながら作業されることを、お勧めいたします。